

SSKA

東腎協

1997年10月25日

No.120

おもな記事

■25周年巻頭あいさつ／全腎協会長・油井清治、東腎協会長・糸賀久夫；2 ■東腎協結成25周年記念講演会を開催；3 ■東腎協結成25周年記念講演「災害時における透析医療の確保について」／東海林文夫さん；7 ■「東腎協の災害対策と今後の問題」／原三代吉さん；17 ■東腎協結成25周年記念会員交流パーティー；18 ■透析歴25年以上の会員さん訪問／斉藤勇・志垣春子・中脇賢蔵・山本淳三郎・藤本二三枝さん；20 ■「緊急時透析患者手帳」を作成；25 ■東腎協活動の窓／25周年記念会員拡大運動・未加入施設訪問先一覧；26 ■なまのたより；27 ■名刺広告；30 ■表紙の言葉／編集後記；33



会場・フジテレビ本社ビル(写真・樹永照也)

東京都腎臓病患者連絡協議会(東腎協)

事務局・☎171

郵便振替口座 00150-0-128390

FAX

E-mail touzin@.ne.jp

東腎協25周年によせて

社団法人全国腎臓病協議会

会長 油井 清治

東腎協が結成二五周年を迎えられたとのこと、長年のご活躍に心からの敬意とお祝いを申し上げます。このような節目の時、二つのご表現があると思います。一つは「もう二五年ですか、月日の立つのは早いですね」として、もう一つは「二五年長い長い年月でした」と、私たち患者の多くは後者の表現であると思います。

四半世紀の患者運動の歴史は重く長いものであったと思います。この間多くの立派な活動家が、医療、福祉の拡充を願ひ活かされました。また、東腎協の皆さんには全腎協全国総会（昨年より大会）の五年ごとの東京開催の際には大変ご苦労をいただいております。



全腎協・由井会長

とに感謝を申し上げる次第です。

私が初めて東腎協の歴史に触れたのは一九八三年に発刊された一〇周年記念誌でありました。当時の宝生会長の患者会結成に向けた情熱に心打たれ、以来、微力ながら患者会活動をさせていただいております。

今私たちには患者負担やむ無しとする新たな医療費問題をはじめとする新しい波が押し寄せられています。この状況は全腎協結成時の厳しい状況に近い重大な時期と、強い危機感を感じています。その他、要介護透析患者の通院支援対策の確立、新しい臓器移植法に伴う腎移植のさらなる推進、長生きのできる質の高い至適透析の普及など、数多くの問題があります。また、介護保険法案への対応もあり、そうしたことを一つ一つ乗り越えていくためにも、全国八万七千人会員の結束が求められていると思います。東腎協と全腎協は同じ屋根の下にあります。東腎協がこの二五周年を機に強固な組織を目指され、全国腎友会のリーダーとして質の高いレベルでのご活躍をされることをご期待申し上げます。

結成25周年記念に

あたって

東京都腎臓病患者連絡協議会

会長 糸賀 久夫

東腎協は一九七二年（昭和四七年）十一月九日、大手町の都立産業会館で結成総会が開催され、今年で二五年を迎えました。

この年は腎不全患者が生存権を主張して立ち上がった記念すべき年となりました。東腎協の誕生は、都内の患者だけでなく、まだ、一部を除き、県組織のなかった地方の患者にも生きる勇気と励みを与えることになったと言われております。

東腎協が二五年もの長い間、活動を続けてこられたのも、会員、家族、医療機関、行政の暖かいご支援の賜物と深く感謝していま



東腎協・糸賀会長

す。東腎協の会報は、当初、「東腎協ニュース」として、B4サイズのもの一枚からスタートしました。それでも当時は、情報が少なかったので、会員をつなく大切なものでした。

今日の会報の基礎を築いたのは編集のエキスパートである加藤茂さん（当時代々木病院腎友会）の功績が大きかったと思います。

腎不全医療は、この二五年、めざましい発展をとげました。しかし、その反面、長期透析による合併症、高齢化、そして、糖尿病の増加など深刻になってきています。また、医療保険抜本改善（私たちにっては）をはじめ、国の難病医療費の自己負担導入、都の心身障害者医療費助成見直しの動きなど、大変厳しい状況にあります。

このように、多くの課題がありますので、会報の果たす役割も大変重要になってきています。多様化する会員の要望に応えられるように誌面の充実をはかっていきたいと思っています。

災害時の透析医療 日頃の心構えが大切

6月15日、新宿住友ホールで多くの会員が集合

はじめに

(司会)堀 和正東腎協副会長

皆さまのご協力のお陰をもちまして、東腎協も二五周年を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

我々が現在、質の高い医療を受けられるのも、二五年の長きにわたり多くの会員、家族の皆さんが積み重ねてきた努力の賜であることはいまでもありません。この点をお考えいただきながら、二五年の節目に当たり、物故者の皆さんに感謝の気持ちを捧げながら、

主催者挨拶

防災に対して一層の理解を

皆さん、おはようございます。日曜日にもかかわらず、朝早くから多数ご出席いただきましてありがとうございます。

ただいま、司会者が申し上げましたように、東腎協は今年で二五周年を迎えました。会員、並びにご家族の皆さまのご協力によりまして、ここここまで発展することが



堀 和正副会長

謹んでご冥福を祈りたいと思います。

それでは、ただいまより東腎協結成二五周年記念講演会を開催いたします。まず、東腎協の糸賀会長がご挨拶を申し上げます。

東腎協会長 糸賀 久夫

出来ましたことを大変うれしく思っています。

この間、腎疾患対策の推進に、東京都衛生局から多大のお力添えを得ておりますが、本日は、来賓として、技監の林さんが見えになっておりますので、御礼を申し上げ、後ほどご挨拶をいただきましたと思います。

今日は、二五周年の記念行事として、「災害時における透析医療の確保について」というテーマで、東京都衛生局医療福祉部特殊疾病対策課長の東海林さんに講演をいただき、その後、阪神大震災の記録映画を皆さんと見まして、防災に対し一層理解を深めたと思います。

毎年、都に災害対策を要請

振り返りますと、東腎協では結成間もなくから、東京都の各局と「予算要請行動」という話し合いを続けておりますが、その中でも一貫して「災害対策をお願いします」と要望し続けています。

初めの頃はどの局に行っても、私達の行動は理解されず、「あなたたち透析患者のことはかり考え、災害対策を立てるわけにはいかない」と冷たい返事で、「災害の時は皆が困るんだから、一般対策で手一杯だ」といわれました。更に、消防庁、警視庁にもお願いに行きましたが具体的な回答を得られない状態が続きました。

東京都腎不全対策協議会設立

しかし、毎年毎年要請書を出し

ながら、「私たちの透析は、災害時でも命を守るにはどうしても必要なんだ」ということが徐々に理解されるようになりまして、特に、今日、講演していただきます衛生局のご尽力によりまして、「東京都腎不全対協議会」という組織が誕生し、その中で、「災害時の透析医療について」の検討が進められ、平成七年一月十日に「災害時救急透析医療システム検討部会」が出来まして、各都内の透析施設に「透析患者及びその治療施設に関する現況調査」という調査が行われました。それをまとめたものが、今日講演いただく基礎資料になっています。

このような報告書が出来たということは、全国の自治体の中でもあまり例がないといわれています。東京が透析に対し、力を入れて下さっていることに感謝したいと思います。

阪神大震災の恐怖

この部会が設置されましたが平成七年一月十日ですが、その一週間後に、あの忌まわしい阪神大震災が起きました。皆さん、まだご記憶に新しいかと存じますが、



永賀久夫会長

平成七年一月十七日、火曜日、午前五時四十六分に発生したといわれています。来週の火曜日が七日ですから、ちょうど二年五カ月前になります。

あの時、神戸の人達は死に物狂いで透析に通ったと報告されています。私達は日常、透析が出来ないと危機感を持ったことはありませんが、透析が出来なければ身の危険にさらされてしまう実感、神戸の人達はイヤというほど経験させられたと報告書は述べています。特に、最近兵庫県で出された体験集を読みますと、交通、通信網の混乱で、病院と連絡が出来ない、電話もつながらないということが、如何に不安を感じる、心細く感じるかご理解いただけるでしょう。

何とか病院に行かなくやならないと、歩く人、車椅子の人、何と

か電車の通っている所へ出る、ある人は十時間近く掛かって、大阪の透析施設にたどり着いたと報告されています。また、陸ではダメだと漁船で堺に渡った方、あるいは自衛隊のジープ、ヘリコプターで透析施設に送られた人など、まず第一に、何処でも良いから透析を受けた、死に物狂いで透析を受けたい、死に物狂いで透析を受けた実体が体験記に書かれています。中には、病院からの連絡を七日間も待ったという信じられないような話も載っていました。

また、やっと病院に辿り着いたら、病院がなくなっていて透析が出来なくなつた方、やつと着いてもカリメイトを持たされて自宅待機をさせられた人、これらの話を聞いただけでも、非常に切ない話です。自分の身に降りかかっているなくても、このような実体を聞きながら、災害にどう立ち向かって行くかを日頃から考えておく必要があると思います。こういう中で被災地、被災地でないを問わず、神戸の透析施設のスタッフの方は不眠、不休で機械を回し続けた。透析患者の皆さんは、医療スタッフの努力に感謝をしているということも書かれています。

震災直後、自分の施設で透析が出来ず、他の施設で透析をした人が、約八百人いるといわれています。また、ある人はこのような体験で「我々は透析スタッフの努力によって生かされていることを実感した」と書いている患者もいます。「普段は、自分一人で生きている、多少傲慢なところがあつたかもしれないが、透析スタッフのお陰で生きることが出来るのだとヒシヒシと感じて、日頃から謙虚に生きなければいけないと感じた」ということです。

日頃から十分に備える

とかく、日本人は熱しやすく、冷めやすいといわれ、私もそうかもしれません。大変な時は「大変だ、大変だ」と大騒ぎをして、喉元過ぎればなんとやらで、もう関係ないということになるのですが、もし、阪神大地震が東京で起きたらどうなるだろう。東京にはビル内の透析施設が多いし、高齢者の方も一杯います。従って、もし自分の所で起きたらどうなるんだろう、ということも是非この機会に考えていただきたいと思います。

阪神大震災から二年半も経ちま

すと意識も薄れてくるかも知れませんが、まだ仮設住宅に住んでる方もいらっしゃるし、神戸の腎友会の皆さんは、辛く、厳しい体験をしているのですから、この貴重な経験を生かして、是非日頃からの備えを十分にしていたいただき災害に対しての心構えを思い出さなければならぬと思います。

後まで皆さんのご協力を宜しくお願ひしたいと思います。ちょっと長くりましたが、挨拶に換えさせていただきます。

来賓挨拶

災害時も透析医療に努力

東京都衛生局技監 林 泰史

只今、ご紹介いただきました、



林 泰史 衛生局技監

せていただきます。どうもありがとうございます。(拍手)

司会 ありがとうございます。只今、会長の話にもありましたように、透析という一疾病を対象にいろいろなとお考えいただいていることは、最大のご配慮をいただいている訳で、我々がそれにお応えしていくのは当然のことです。

つぎに、来賓の方のご挨拶をお願いしたいと思います。日頃大変お世話になっております、東京都衛生局技監でいらつしやいます、林さまをお願いいたします。

東京都衛生局技監の林でございます。本日は、東腎協結成二五周年記念大会が開催されましたこと、心よりお喜び申し上げます。また、本日この大会にお招きいただきましたことに感謝申し上げます。

腎不全に対する医療は着実に進歩してきておりますが、腎不全発

生のメカニズムや治療方法につきましては、まだ本質的な解決には至っておりません。一方、透析機器の改良や治療技術の向上は目覚ましいものがありまして、これにより、治療成績も著しく改善されまして、患者さんの負担もかなり少なくなっていると思います。ここに至るまでには、ご列席の皆さま方やご家族の皆さま方の並々ならぬご苦労があったものと推察いたします。

25年間の東腎協活動に敬意を表する

会の皆さま方に於かれましては昭和四七年に東腎協を結成されまして、二五年間にわたり、会員相互の交流をはかれると共に腎臓に関する正しい知識の普及や福祉の推進、腎不全対策の確立に日頃から並々ならぬご努力を傾けてこられましたことに心から敬意を表するものでございます。

現在、都内に腎不全患者さんはおよそ一五、〇〇〇人おられます。今日、慢性腎不全に対する根治療法として、腎移植が医学的にも方法が十分確立しておりますけれ

ども、腎臓の提供者はまだまだ少なく、移植希望者に十分応えられておりません。また、糖尿病が原因で腎不全になる方々が増えてきつつありますけれども、これも懸念されているところでございます。

これらの腎不全に対する行政施策として、東京都では、腎疾患の早期発見をはかるための検診や人工透析を必要とする腎不全患者さんの医療費、公費負担、並びに、腎臓移植希望者に対する組織適合性の検査費の助成を行っているところでございます。

東京都は災害時の透析マニュアルを作成中

秋には、腎臓移植推進キャンペーンも行い、都民への普及啓発をはかつて参ります。また、先程、糸賀会長がふられましたように、この三月には東京都は「災害時における透析医療の確保について」と題して東京都腎不全対策協議会からの報告書をいただきました。

この報告の内容は、阪神淡路大震災のような大災害が発生した場合においても、透析患者さんが出

来るだけ速やかに、透析医療を受けられることを基本といたしまして、協議会が意見をまとめたものでございます。

今年度は、この報告を受けまして、早急に透析医療機関の災害時の対応や、透析患者さんの災害時に取るべき行動などのマニュアルを作成するほか、都としても災害時に透析が出来るか、出来なないかの可否の情報の収集や提供を行いまして、透析医療の確保に努めると共に、人工透析医療機関名簿を作成して、災害時には医療機関に協力を求めています。今後とも、

東京都では腎不全対策の一層の充実に努めていく所存でございますが、皆さまがたのご支援とお力添えがなければこれを推進することはできません。是非今後共、よろしくお願ひ申しあげます。終わりに東京都腎臓病者連絡協議会の益々のご発展と、ご列席の皆さま方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしました。お祝いの言葉とさせていただきます。

平成九年六月十五日

東京都衛生局技監、林 泰史

(拍手)

東京都に対して要請実り、講演実現

「災害時の透析医療」下野

東腎協が東京都に対して災害時の人工透析治療体制の確保についての要望書を提出したのは一九七九(昭和五四)年のことでした。それ以来、毎年度庁で次年度の予算に対する要請を行うときには、いつも要請項目の中に、災害時対

策をいれてきました。一九八八(昭和六三)年には東京都腎不全対策協議会と東京都腎不全対策連絡会が設置され連絡会には患者代表も参加できるようになりました。東腎協独自でも加盟施設に対して「緊急時の透析用水及び電源確

司会 どうもありがとうございます。患者というのは腎臓で、質のいい医療、生活というのはこれだ。いいということはないので、まだまだ東京都の方々にはお願ひすることが沢山ありますが、あまり贅沢をいわずにほどほどにという所が肝要じゃないかと思ひます。

さて、今日の予定ですが、二五周年の講演会は十二時半まで、先程会長のほうから話のありましたように、講演「災害時における透析医療の確保について」をお願いして、その後、阪神大震災の映画、最後は東腎協の原災害対策委員長

保に関する調査」を行いました。

一九九五(平成七)年一月、あの阪神・淡路大震災に先立って、腎不全不全対策協議会の中に「災害時救急透析医療システム検討部会」が設置され、一二月都内透析施設への「透析患者及びその治療

からちよっとお話がありまして、午前の部は終わりということになっています。よろしくお願ひします。午後の部もありますので、皆さんお疲れでしょうが、リラックスしてお過ごしただければと思っています。

それでは、引き続きまして講演に入ります。「災害時における透析医療の確保について」東京都衛生局特殊疾病対策課長の東海林様よりお話をいただきましたと思います。ではお願ひいたします。

施設に関する現況調査」へとつながっていききました。そして、一九九七年三月(平成八年度)には「災害時における透析医療確保について」を作成していただいたのです。そして、この度の記念講演が実現しました。この講演は透析患者が災害時でも生命を維持できるように運動してきた道のりの記念でもあります。

災害時における 透析医療の確保について

東京都衛生局医療福祉部特殊疾病対策課長 東海林文夫



東海林文夫さん

震災や、風水災等日本は大変自然災害が多いのですが、地震は何時来るか予測が難しいということです。日頃の心構えが非常に大切ということです。どうしても行政側は組織が大き

東京都では、約一五、〇〇〇人が人工透析を受けておられます。全国では一五万人位おられます。

都内の透析患者、約一萬五千人

約一萬五千人

皆さん、おはようございます。只今、ご紹介をいただきました特殊疾病対策課の東海林でございます。今日は、東腎協二五周年記念という、大変名誉ある記念日にお招きいただき、「災害時における透析医療の確保について」という題で講演して欲しいということで、ちようと、東京都も腎不全に対する施策と、災害時の対策が現に迫られておりますので良い機会でもあり、お話をさせていただきます。

まず、東腎協糸賀会長さんをはじめ、役員の方々が講演の機会を与えて下さったこと、それから大勢の皆さんが朝早くからご参加いただきましたことに感謝しております。それでは、あらかじめお配りした資料と、OHPを使いますが、字が小さくなりますので、ゆっくりお話をいたします。「なるほど、東京都はこういうことを考えているんだ」と三、四〇分お話したいと思っております。

患者の皆さんは、神戸で起きたような大震災が発生した場合、どのように対応しようか、私達が考えている以上にいつも真剣に考えておられると思います。

い分だけ臨機応変さに欠けるといふ欠点を持っています。「日頃守りますよ」ということはいわゆる「本当に起きたら、守ってくれるのか」と聞かれると、「対策を練っています」という返事で、行政は頼りにならないと患者さんには不満を持つと思えます。



九月までに、医療機関向け、

患者向けマニュアルを作成の予定

ただ、本年三月三十一日に、腎不全対策協議会で、「災害時に於ける透析医療の確保について」という案をまとめたので、それに対して素早く、受け答えしなくてはならないことになっています。

腎不全については、前々から私どもの課が担当しております。今回も、「災害時における透析医療の確保について」こういうふう

アンケートを取りますと、半数以上の医療機関は災害時のために医療機関独自のマニュアル、病院独自のマニュアルを持っていると答えているのですが、残りの四割位は、「まだ十分そこのものは作っていません」とのことです。

「申し訳ない、こうしたい方が良いでしょう、こうすべきだ」といろいろと提言したわけですが、災害時の医療、救急体制はどう対応していくかは今後検討を進め、九月の防災の日までに災害時における透析マニュアルを作る予定です。マニュアルは、医療機関向けのマニュアルと患者さん向けの心構えをまとめたものです。

ってないようです。

東京都としてはマニュアルの無い、どちらかといえは小さな透析の医療機関を対象に東京都の考え方を簡単にまとめた、ガイドライ的なものを作ります。それを参考に、各医療機関が日頃考えていることをマニュアルに仕上げてもいいかと思っております。それと同時に、患者さんも本当に災害が起きて、自分が透析を受けている医療機関で、もし透析を受けられない時はどうしたら良いか、何処に替わりの病院がある

日頃の近所交際も大切

日常の生活では、非常持ち出し品の用意、まあ、私達も同様ですが、自分が薬を飲んでいれば、何日間か、一週間分位でも手元にあるものは持つて逃げなければならぬ。それから、自宅で腹膜灌流(CAPD)では灌流液の問題等

があったり、透析を受けていますといういろいろな合併症がありますので、場合によっては誰かに手伝ってもらわなければならない。あるいは、透析医療機関へ連れてつてもらわなければならないというこ

か、そういうことはある日突然やってくるわけですから、日頃からどうやれば良いかを準備しておく。災害については、日頃の準備が一番必要なことだと思います。起きた結果に対するよりも、準備をしているかしてないか、あるいは、日頃からどういうふうにしてようか、ああいうふうにしてようかと策を練っているということが災害に強い、災害に巻き込まれた時にも立ち直りが早い、うまく逃げる事が出来ると思っております。

とがあります。日頃から家族だけでは足りないということもありです。そういうときには近所との協力を得る、日頃から近所つき合いを良くしておくということになります。

災害時の透析確保に、日頃から

透析医療機関の情報入手

もし、災害が起きた場合を想定しますと、透析患者さんが自宅にいて災害にあった場合と、仕事や外出先で災害があった場合とは、随分状況がちがってくると思いま

す。自宅で災害が起きた場合、最寄りの透析医療機関、自宅近くの所を探せば良いのですが、会社であれば会社の近くの所、しかし、実際災害が起きてみますと、必ずしも歩いて行ける近い距離じやなくて、遠い所になる可能性がありま

るので、情報網や会員の皆さま方の情報を日頃から収集しておくことが必要です。

身の危険は自分で守る

次に医療機関の立場からいいますと、日頃は患者さんと職員の方々が非常に仲良く、いろんな話をしながら、余裕があります。が、災害が起きますと、皆、あわてますので、日頃のゆつくりとした気分が何処かに吹っ飛んでしまいます。まず、透析の最中に大地震が来たらしめましたら、医療機器をよほどしっかりと固定してない限り、透析の機械は周りに沢山ありますの

で、ゆれたり、移動したり、上から物が落っこちてきたりします。片手はシャツでつながつてい

ますから、自分の身を守ることはかなり難しいと思います。ベットに寝てますから、上から物が落ちて

くる、両手は使えませんが、片方の手で防ぐということになりま

す。従って、今、透析を受けられている場所を見渡して、上に棚がある、何か落っこちそうなのがある

ら、頭の上には物を置かないように、固く場所を変えてもらう、機器はしっかりと固定してもら

う。そういうことは医療機関に言って改善してもらおう。医療機関側は、場所が狭い上に荷物が多

いには是非そうしなくてはならないと思っています。もし気づいたことがありましたら医療機関の方に申し出るのが良いと思います。

災害時には積極的に医療機関と

連絡をとる

大体六割位の医療機関は、患者さんに対して自分達から連絡する方

法を持ってますということですが、本当に災害が起きた時は、医

療機関側の連絡だけを得ていると、なかなか順番が回って来ない

こともありま

す。患者さんが五〇人いるとして、自分は四九番目のリストに載っていれば、どうしても遅くなってしまうので、医療機関側の方へ積極的に連絡をとる、安否を伝えるということ。電話が使われていますと通じませんので電話以外の方法、ファックス、医療機関のポケベル、携帯電話など、差し支えない範囲で連絡方法を教えてもらっておい



協力医療機関の紹介を得る

ほとんどの医療機関は独自に協力医療機関を持っていると思います。ですが、協力医療機関も同時に災害に遭う恐れもありますので、必ずしも持つてゐるからといって安心は出来ません。新宿がだめでも多摩のほうに持つてゐる、埼玉に持つてゐる、横浜に持つてゐるなど、それはそれで良いとしても、そこに着くまでに時間が掛かり、必ずしもその病院を推薦する

わけにはいかないということもあります。やはり、医療機関から出ている名簿、会からの名簿、私達も名簿を作りますので、そういう物をもう一度確認して、日頃、自分達が通つてゐる通動経路や、近所に透析施設がありましたら、できるだけメモしておき、大切な物として肌身離さず持つていてください。

災害時でも、四八時間以内の

透析を確保する。

透析を受けている時に災害に遭う場合と、受ける前や、受けた後に遭う場合がありますが、東京都は、週三回透析を受けている方が

多いだろうと考え、安全の確保という意味で、前回の透析から四八時間以内に透析を受けることが望ましいとしています。

都内透析医療機関を集約中

何とか二日以内を確保出来るよう努力することですが、透析医療機関は透析科というふう

に表示してない。内科が半数以上、六割位ですか、泌尿器科が一割、二割位、それから外科で、透析科

とはいっておりません。ただ、ビル診療所では人工透析や透析室と書いてありますが、透析施設の実数ははっきり分らない。ですから、今も、医師会、あるいは患者会の方の協力を求め、調査しています。

衛生局では病院の情報は分かっています。病院は開設に当たり、都知事の許可が必要ですから分かりません。災害が起きた場合は市区町村の情報をもとに東京都のほうに集めるということになっています。足元の新宿区で起きた場合に、透析をやっている診療所が何処か、ありますかと、聞かれても、診療所の情報が少なく私達も答えられないことがあります。寧ろ、新宿保

健所に行ったほうが分かるということになります。

病院の情報は、東京都で持っている、診療所は保健所が持っているという二重構造になっていますので、情報を集めるのに時間が掛かる。災害が発生して四八時間以内に出来るだけ早く透析医療を確保しなければならぬので、日頃から情報収集をする。これをやろうと思います。今回、「災害時における透析医療の確保について」ということが、災害対策、災害医療の中で重要な位置を占めておりますので、透析医療機関の名簿を作っている最中です。これは秋までには出来る予定です。

透析一回に、一二〇ℓの水を使用

阪神のような大災害が起きますと、医療機関がどう対応したかということが、反省材料になるわけです。医療機関側としては日頃からいろいろな物を備蓄しています。

それから、安全対策もある程度やっています。水の確保、電力の確保も皆さん一様にやりますという返事は返ってくるので

すが、はたして、これが本当に役に立つかどうかということになると、どうも阪神の経験からすると疑問があります。

透析に一番重要なものは透析用の水ですが、水道水でも井戸水でも、透析には最低一回、一人当たり一二〇リットル位の水が要る。二度水は使えませんが、使った

水は廃棄されます。そのための水槽を持っている、透析専用の水槽を備え付けてますよ、という所もかなりあります。たしかに、準備は良いと思いますけれど、それは病院の場合は病院全体の水槽ですね。それからビルの診療所ですと、ビル全体の水槽ですね。ですから、医療機関独自のものを持っていると、実際一カ所でもパイプが壊れてしまいますと、水は、あつという間に無くなってしまう。阪神に限らず、他の大震災の時も、確かに水槽に水は一杯溜まっていたんですが、火事と間違えてスプリンクラーの誤作動で水が流れてしまい、実際は透析用

まず、透析機械から離脱する

です。まず、自分の身の回りを確認する。透析から離脱して、周りの安全を確認してから脱出することです。その時にどういう行動をとるかということ、まず、自分で自分を落ち着かせる方法を探す。とにかく、一瞬の間をしのぐ。上から物が落ちるのを避け、倒れたりする物を必死で支えるということまで精一杯のようです。

の水だと思っただけでも、水槽は空になってしまふ。必要の無い所へ貴重な水が一瞬にして流れてしまふということがありました。また、自家発電があつても、水浴式のものですと、冷やすために大量の水が使われたりして、あつたはずの水が無かつたということもあつたようです。

電力は線が切れれば使えません。切れてしまえば、電力は通じませんのでどうしようもありません。従つて、水と電力というのは、日頃から備えてありますよといつても、実際はあまり役に立たないことが多い。都としても水と電力の確保が最も重要と考えています。

スタッフのほうも倒れる物を支えたり、揺れるベツトを抑えて患者さんが転げ落ちないようにしたことは覚えていますが、他に何をやったか覚えていない。ほんの僅かな時間なんですけど、ただそういう時にも日頃鍛えていれば、まず、自分が落ち着いて、それから患者さんを落ち着かせるという行動をとつたということです。日頃

の備えが一番重要ではないかと思

います。

透析不可能な時は被災地外の

透析医療機関の紹介を得る・

もし、災害に遭われて、自分が受けている透析医療機関が水も来ない、電力も来ないとなったら、そこはあきらめて、災害を受けてない地域の医療機関を紹介してもらったり、自分で見つけるということになります。ただ、医療機関を移る場合でも、自分はこの医療機関に行くことを透析を受けている施設に伝えてもらいたいのです。知らせが無いと患者さ

んが何処へ行ったか必死で探さなければなりません。自分達の患者さんがどうなったか、医療機関の責任もありますので、一言親戚のある横浜の方へ行きますと言うか、メモで伝えることをすれば、かかりつけの医療機関との連絡は途絶えません。

一番困るのは、医療機関側から何時かは連絡が来るだろうと思っ

て、じっと待っていることです。

日頃から災害時の連絡方法を

医療機関と話合う・

自分のほうから連絡しようと思えば、電話が通じるようになれば簡単に出来るわけですから、そうするとお互いに安心します。災害時には重要なことだと思えますので、日頃から、災害時に連絡をと

る方法を皆さんが受けている透析機関と十分話し合ったほうが良いと思います。勿論、余裕があれば東腎協や保健所に連絡を入れてもらえると一番いい。ただ、電話等も大変なパニック状態ですから、

不通になって通じないことがあり

まです。まず、日頃から皆さんが受

被災地外の医療機関の受け入れ

それから、被災しなかった医療機関は自分達が最大努力したらどの程度患者さんを受け入れられるかということですね。透析の回数と一回の透析時間の最大効果を狙う。例えば、一回四時間のところを、一回三時間にして、週三回やるとかすれば、時間はかなり節約出来る。一日二四時間フル回転する

知れませんが、やはり、災害は免れたいとしても、安全に透析出来る蓄えは自分達が日頃診ている患者さんの二日〜三日分位です。となると、災害に遭われた人を受け入れますと、一日か二日ぐらいいかないということになってくるわけ

として、日頃から備蓄は、医薬品、機材類は一週間位蓄えます。しかし、水は二日位しかもたない。電力は自家発電装置があるからといって何日也使えません。また、透析機械にバッテリーが着いていて日頃から充電したり、交換しなければならぬということ、それほど、役に立たないかも

そのために、医療機関側としても納入の業者とは、「災害時には優先的に医薬品や器具の納入をお願いします」ということを約束しておかなければならない。口約束だけですと、言った、言わないということもありますので、きちんと書面で、「大規模災害の時はこういうことで医薬品をお願いします」と契約することで。

東京都は透析用の水、電力を

最優先で手配

東京都では、水と電力は最優先

で手配しなければならないことに

なっていますが、リストの中に入ってはいけません。ビル診療所とか小さな所ですと把握しきれないところがあります。「電力を下さい」と言われても、急には分からないということがありますので、医療機関側との連携がかなり必要です。都も、新宿区のと

かビルに透析医療機関があることが分かっていけば、連絡が入った時、確認するのに手間が省けるわけです。このようなことから、医療機関側には、透析医療機関のリストに載せるよう働きかけていくということになります。

医療機関は受け入れマニュアルの

作成が必要

ところで、医療機関のマニュアルは自分達の所で災害が起きた時のマニュアルで、他の患者さんを受け入れをしようというマニュアルはなっていない。

都内には勤務の都合から自宅近くで透析を受けてない人がけっこういます。また、横浜の人が都庁の下のクリニックで透析を受けているケースがあるわけです。そうしますと、その人は大災害の時は帰れないことになりそうです。透析医療機関としてはその人のために一週間位ベットを提供しなければならぬ。入院設備がなくて、もしかしたら誰かが一週間位

厄介になつて。他の人が透析を受ける間は自分はちよつとイスに座って、場所を譲ったり、廊下に別のベットを持つてくるとかして、急場をしのぐということになります。そこまでは診療所や医療機関は考えてないかも知れませんが、最悪の場合にはそういうことも覚悟してもらいたいということもマニュアルには書いておかなければなりません。

災害時の転院は止むをえない

東京で災害が起きたら、東京が全てやらなくてはということはありません。埼玉県、神奈川県、横浜、千葉市などにお願する。災害を免れた地域から通つて来る人は、自分の病院が何ともなかったとしても、災害に遭つた人の透析を確保するために、協力を求められることもあります。そして、災害の中心地の患者さんをまず透析する。次に病院の近くに住んでいる人の透析をやると、遠くから通

つてくる人を透析する余裕がなくなつてきます。遠くから通つて来る患者さんのは地元で透析してもらうことも考えられます。「災害時には無理に遠くからこままで来なくなつてもいいんだよ」と言われると、医療機関が自分にあまり一生懸命やつてくれないんじゃないかという不信感が出たりして、医療機関も言にくいのですが、災害の時にはそういう協力を求められるということがあります。

クラッシュシンδροーム対応

次に、クラッシュシンδροームという皆さんの慢性透析とは全然違う問題なんです。これは足が挟まり大怪我をして、その筋肉が壊死におちいって腐つてきます。その時に出来る老廃物が排泄されなくなり、急性腎不全を起こします。それには人工透析が一番有効な治療ですから、急性透析を要求されるわけです。日頃透析を受けている人がその患者さんの透析のために、透析を受けられない

事態が生じることもあります。そうすると、「私が日頃使っている所をどうしてくれるんだ」となります。透析機関にいろいろ照会してみますと、「クラッシュシンδροームにも対応します」と返事は返つて来ますが、実際その施設が小さいところであれば、整形外科の問題や内科外科の全身管理の問題もありますので、はたして対応できるかということになります。クラッシュシンδροーム対応

というのも災害時医療対策の重要課題なんですが、私達としてはそういう患者さんを受け入れる所は、どちらかという大病院でやってもらいたいという気があります。

ボランティアとの協働

ボランティアの方は、日本人は心が冷たくなったなど言われますが、災害が起きた時のボランティア、タンカーのオイル漏れの時のボランティアなど、まだ、日本人もボランティア精神が旺盛です。大変結構なんです。ボランティアも大抵二三日ですから、医療機関もどう使って良いかわからないということがあります。

学校が最適な避難場所

災害が起きますと、いわゆる避難の場所が出来るわけです。避難の場所を決めたとしても、阪神の例を見ますと、やはり、体育館がある、学校が一番の避難の場所です。グラウンドが広い、教室も分かれています、何となく集団で住むというよりはグループで住み分けられる、廊下も長く、広い。また、

小さな所で、日常の慢性的な透析を受ける人を犠牲にしてまで、クラッシュユシンドロームに對してもらうのはどうかと思っていま

す。医師免許証をもっている、あるいは私、看護婦ですといわれても、手伝いをしてもらう場面がないというところでは、患者さんうまく誘導したり、ちよつと足腰の弱った人、目の不自由な人が大勢いますので、患者さんを案内をする、などの活動で良いかと思いま

す。学校は適当な距離にあります。小学校でしたら三百メートル、中学校でしたら一キロ以内は、一校と学校があります。避難所では、避難した人が、日頃透析を受けているか、いないかは、分かりません。自分が避難所や救護所に行ったら早めに「透析を受けているんです」と言ってもらわないと、周り

の人は後で言われても困まることになりません。いろいろとプライバシーの問題があるかもしれませんが、「透析を受けているので、二

透析カード等内容がわかる

ものを身に付けておく。

災害の時は、「自分の健康と自分の安全は自分で守る」ということです。そういうときは医療の相談だけではなく、「私達は透析を受けているので、医療機関を探したい」ということをキチンと申し

出る。そうしますと、透析の必要性はわかりますので、周りも一生懸命探さなければなりません。医療機関が作られてきた透析カードや、自分で作っているカードで、透析の内容を誰が見てもわかるようにしてお

いてください。透析の内容としては、回数、いつ頃から始めて、いま何処何処に通っていて、一回何時間というようなことです。透析液の組成は各メーカー殆ど同じで、それはわかると思います。

次は重要な合併症。透析を受けますと、心臓が悪い、血圧が上が

三日は良いとしても三日目には透析を受ける必要があるのです、早く紹介してください」とキチンと伝えることです。

っている、合併症により目が自由であること等は、ちよつと見たらわかる程度にカードを作っておいた方が良いでしょう。

医療機関も指導しているようですが、指導していない所もありますので、もし、皆さんが今通っている所で透析カードがないならば、自分のことですから透析の間にメモをしたり、カードを作ってもらうなど、準備しておけば良いと思います。



日頃から災害の起きた時を

イメージして備える

災害の時どう対応するかは起きてみないとわからない、というのが本当のところかも知れません。ただ、いろいろな例を見ますと日頃の準備、心構え、訓練等をしておくだけでも随分違う。いわゆる、イメージトレーニングですね。精神的に「頑張ろう、頑張ろう」だけじゃなくて、具体的な場面を想定します。起こりうる災害は出来るだけ避ける、起きたらどう対処するかを心がけてもらいたいと思います。

地震の強さですが、強震は相当揺れます。壁に割れ目が走る、煙突が、墓石が倒れる。烈震では家屋の三〇%、三〇%といえますけれど、私達は家屋というと、木造家屋のイメージがあるんですが、実際、神戸の例を見ますと、木造

に限らず古いコンクリートの建物

も相当倒れています。強震、烈震などと分類しても、実際は揺れる方向、場所によって随分違う。また、建物内の設備にしても、揺れる方向によって、倒れ方が違いますから、自分が透析を受けている場合、頭の上に物が無いとしても、揺れ方によっては離れた所から倒れてくる。機械が動いたり走ったり、ストッパーが着いてないと大きく動いてしまう。ですから、大丈夫だとは思っても、透析を受ける時にベッドがぐらぐらするようでしたら、ストッパーをお願いします。ただ、いつも自分でやってみようとして、職員は気が付きませんので、「お願いします」と職員にいうことが大切です。

宮城県沖地震での対応

昭和五三年の宮城県沖地震、震

度五で強震だったということです

が、スタッフがやったことは、一番はベッドを支えた、二番目は水の供給装置を見に行った、三番目は窓を開けた、四番目はガス、電気、ボイラーを見に行った、五番目は何をやったか分からない、となっています。

何をしたか分からないということとは、何かやったのだと思います。が、全然記憶にないということですから。返血をして、患者さんを建物の外に出したのは発生してから十分間位後、本当は短い間ですが、それでも何をしたか覚えていないということです。

それから、患者さんの対応は、一つは逃げる事が出来ない、当

阪神大震災、機器の復旧に一週間

神戸の場合、大阪と明石の間で地震があったのですが、メーカーの方が、災害で使えなくなった医療機器を保守、点検するのに、東京の方からも応援に行つて、最大努力して復旧に一週間掛かったということです。この会社は関西にいるスタッフ全員で足りなくて、名古屋から行つたり、東京の方から応援に駆けつけたら、結局一日

然です、ね、機械がくっついてますので。二つ目は、運を天にまかせた。これは大変結構なことだと思います。上から物が落ちて来るのを防ぐことで精一杯。次に、家族、家のことを考えた。あとはスタッフが居るから安心だ、もうダメだと思つたので、押さえないで。早く逃げたい、動かさないのが精一杯、声が出なかつたということ等ですが、結局、スタッフが一生懸命支えたり、声を掛けることによつて、患者さんも安心しました。

幸い医療機関は防火設備がキチンとしていますので、火災になることは少ないんです。

目は状況を確認するのが精一杯、二日目に行つて、一日の修理件数が三件あった。そして一週間掛かつてやつと復旧したということです。もしかすると透析機関が一週間はダメということになります。ですから、ダメな所にはこだわらないで、他の施設を一生懸命探すということです。一週間過ぎれば、元の所で透析が行えると思

います。

透析に行くのに自衛隊の

トラックを利用

それから、どのように足を確保したかと言いますと、一番多いのは自衛隊のトラックを使ったようです。二番目は自家用車、他に救急車、病院の車、電車、バスや自転車、バイクなど。病院の指示で病院の患者さんを運ぶというこゝで、自衛隊のトラックが使えたのかも知れません。

病院探しについては、自分で探した人、知人、親戚、消防署、電話帳、患者機関誌、他施設より、自衛隊、ラジオとあります。自分で探した人は以前より探していたという人が案外多いですね、十人

いますから、日頃の心構えがしっかりしている感じですね。消防署に聞いた、電話帳、電話帳にはいろいろなことが書いてありますから、慌てている中で電話帳で良く探したと思います。日頃から対策を練っておいてもらいたいと思います。

それから、中規模な病院だと思えますが、透析患者さんが二九九人。その内、二七四人が通院、五人が入院であったということですが。自宅が全壊した人が四六人、その内二七人が持ち家だったということですね。

阪神大震災で透析できなくて死亡した人ゼロ

被災地の患者さんは避難所に行った、親戚の家や、知人宅、入院

が半数で、大変な目に遭われたという事です。帰る所も壊れてし

まったという場合には病院の中にも寝泊まりせざるを得ない、ということもありますので、日頃から、救急災害に備えて、ある程度準備をしておかなくてはならないと思ったといえます。幸い阪神大震災の時には透析を受けられなくて亡くなったという方は居られなかったと聞いています。それなりに、皆さん苦勞して、臨機応変に透析を受けた結果であって、必ずしも行政がしっかりしていたということではないのではないかなと

患者会と東京都の協力重要

以上、災害時の透析医療の確保について考えを述べました。

今後、患者さんの団体との協力が必要です。重要になってきます。東腎協、糸賀会長始め会の役員の方といろいろと打ち合わせる機会もあると思いますので、皆さん会員の方々の意見がその中に少しでも入れば、災害時のよりよい対策が出来るのではないかと思います。

ちよつと、時間をオーバーしましたが一方的にお話して申し訳ありませんが、これで終わりたいと

思っています。

今後、災害時の医療については、特に透析医療については、まず、出来るどころ、必要のあるところから医療を確保していくというのが、行政のやり方ではないかと思えます。平等、平等といつても、全員をおしなべてやるのは難しいと思います。ただ、困っているのは明らかです。対策協議会の意見、阪神淡路大震災等を踏まえまして、東京都としても一生懸命対策を立てて行かねばと思います。

思います。

(拍手)

(文責 清水・木村)

司会 ありがとうございます。大変きめ細か内容で、皆さんも理解されたと思います。



東腎協の災害対策と 今後の課題

東腎協災害対策委員長 原 三代吉



原 三代吉さん

災害は、大きなものとしては地震、火災、断水、停電。地方によって洪水、地滑り、土砂崩れ、集中豪雨、津波、高潮、雪崩、豪雪、落雷、濁水等が上げられます。阪神・淡路大震災を教訓に、全腎協では一早く災害対策のマニュアルを作成致しまして、また防災の手引を作りまして、各透析施設に配布しております。担当ブロック一都八県によります災害対策推進委員会を開き、災害対策広域ネットワークの促進というところで、こちらも取り組んでおります。

東腎協と致しまして、災害対策委員会を設置し、東京都及び都議会各党に対して災害時の透析施設ネットワーク化や、通院の確保、緊急時透析治療体制を早急に確立するように要請しております。また、各透析施設に対する防災の意識調査の実施、透析患者必

携、緊急時透析患者手帳と申しましていま東腎協では災害対策というところで、緊急時透析患者手帳を作成中でございます。

東腎協ではブロック別透析施設名簿の作成、緊急時役員連絡網を作成して、災害時に備えております。それでは、実際に透析中、病院で透析しているうちに災害が発生した場合、どうでしょうか。まず、スタッフの指示に従って機器的回路の離脱方法に従って離脱し、スタッフの誘導に従って進められた避難場所に行き、スタッフによる抜針や止血を行います。また、自宅等で災害に遇った場合は、あわてず冷静に判断して行動することが第一です。

まず、自分の通院している施設が透析が可能か不可能か、これをまず確かめることが大切です。次に、当施設が透析が不可能な場合には、透析可能な病院を探すこととなります。これはまだ現在、透析施設間ネットワークというものがあるが確立されておられませんので、いま東京都がそういったところにネットワークを一日も早く作ってほしいという要望も出ております。災害時の患者の自己管理につい

てちよつと話しますと、まず食事と水分と薬の管理。これが重要になります。災害時、透析が予定通りできない時でも、食事と水を手元に管理すれば、あまり苦しまなくても数日間は日常生活ができることになっております。カリウムは少なくとも一二〇〇ないし一三〇〇キロカリウムを摂るよう心掛けて下さい。蛋白質はなるべく少なめに摂りましょう。塩分については一日三ないし四グラム程度に抑えるようにします。高カリウム血症は死に直接関連がありますので、カリウムについては充分注意を図ることです。水分の量は一日三〇〇から四〇〇ミリリットルプラス尿量、尿の出ている方は尿量をプラスする。なるべく体重の増加を防ぐことが大きなポイントになります。

次に大事なものは薬です。我々が服用している薬については、二、三日飲まなくても体に大した影響がないものと、一回でも飲まない体にすごく影響が出るもの。例えば血圧降下剤、心臓の薬、糖尿病のある方はインシュリンなどは、即飲まないとい体に影響が出ますので、充分気を付けて下さい。

大いに飲み、食べ 未来の発展を誓う

6月22日、アルカディア市ヶ谷で108人が参加

梅雨時で心配された天気も今日のパーティーを祝すかのような好天となった、六月二十一日(日)東腎協結成二五周年記念パーティーが市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷(旧私学会館)」で盛大に開催されました。

会場となった「高尾の間」には、午後四時のオープン前から華やかな衣装に身を包んだ女性会員も多数参加し、透析患者とは思えないような明るく、元気な笑い声が辺りを圧倒していました。

パーティー開始の四時半には、一〇八人の出席者で会場は一杯となり、久しぶりに会った人達が多いのか、あちこちで旧交を温めたいようでした。

定刻通り、原常任幹事の司会でパーティーはスタートしました。

始めに挨拶に立った、東腎協系賀会長は、「早いもので、東腎協は今年で記念すべき二五周年を迎えることが出来ました。これは、ひとえに会員皆さんのご協力の賜であり、心からお礼申し上げます。私は、東腎協結成当時から参加しております。現在は組織も大きくなり、内容も拡充してきましたが、一方では、我々透析患者に

とって厳しい時代が始まりつつあります。我々の要求を患者多数の声として行政に訴えるためにも、会員の増加が何より大切です。本年度は、会員拡大を重点に取り組んでいきますので、皆さんのご協力をお願いします。さて、先程から沢山の食べ物、飲み物が用意されていますが、次回透析まで二日あることを考えて、皆さん適当に召し上がって下さい」と東腎協会長らしく、出席者に気を配った挨拶をしました。

引き続き、来賓の方々からお祝いの挨拶がありました。中川初代事務局長は「東腎協結成二五周年、誠におめでとうございます。住まいの茨城から参加しました。三〇年にも是非出席させていただきます」と思っています。

また、乾杯の発声をお願いしました、泉山相談役は「私は二五年前、東腎協が結成された時には病床から参加しました。簡素だった組織から、年を重ねることに内容の優れた組織になったことを喜んでいます」と祝辞をのべました。

続いて、食事、歓談の時間となりましたが、会場の一方に並べられた飲み物や和・洋・中の馳走

が見る見る内に無くなるほど皆さん大いに飲み、かつ食べ、途中で料理を追加するほど旺盛な食欲を見せました。

その間、透析歴二〇年以上の会員の表彰が行なわれました。二五名の該当者には、記念品として送られた、透析歴最長、今年で二七年目の三浦さん(五一歳の女性)が、「これからも共に頑張ります」と挨拶をしました。

現在ほど透析技術が発達していなかった二〇年前の苦難の時代を生きぬいて、こうして今でも元気に活動されている皆さんには敬意を表すると共に、我々も大いに勇気づけられました。

次に、東腎協各委員会が紹介されました。東腎協は毎月一回、常任幹事会を開催し、四月の総会で決定された年度方針を実現する方法、内容について討議、決定していますが、その討議案は各委員会で練られて、常任幹事会に提案されます。

委員会には、教官委員会、編集委員会、会員拡大・交流委員会、事務局・財政検討委員会、災害対策委員会、地域福祉委員会、渉外



25周年を参加者全員で祝う



20年以上の会員を表彰



全腎協・小栗修副会長



夢競馬で牝馬になった皆さん。お疲れさま。



山下美恵子さんのマジックショー

担当の六委員会一担当があり、各委員会の代表者から活動内容が簡単に紹介されました。

堅い行事が済んだところで、皆さんお待ちかねのエンジョイタイムに移りました。まず、山下美恵子さんによるマジック&歌謡ショーが行われました。山下さんのプロフィールは機関誌、東腎協一九九号の「会員さん訪問」で紹介されていますが、特に、歌の実力はテレビのど自慢に合格したとおり。その声、節回しは折り紙付きで、演歌「河内男節」ほか一曲を歌われましたが、「アンコール」の大人気でした。

続いて、東腎協恒例の夢競馬が行われました。出席者の中から六人の女性を馬に見立て、一〜六までの番号をつけます。サイコロを振り、目の数と同じ番号の馬が一目づつ進み、例えば、一〇目進むとゴールインといったゲームです。自分が投票した牝馬（ひんば）が勝てば記念品がもらえるので、一同大いに興奮し、会場は大歓声に包まれていました。

次の、カラオケ大会は、始めの内皆さん遠慮され、司会者が頼んで歌ってもらうほどでしたが、途

中からは自稱のど自慢の方々が続々と名乗り出て、時間の関係から途中で打ち切らねばならないくらいに盛り上がりました。

いろいろの娯楽番組で会場の雰囲気も大いになごやかに変わったところで、「透析の歌」を皆で合唱しました。この歌は、かつて流行した、「浪花節だよ人生は」の替え歌ですが、東腎協会員が透析患者のベテラヌを詞にした秀作で、森田常任幹事の歌唱指導で全員が声高らかに合唱しました。

皆さん大いに飲み、食べ、お腹も楽しさも一杯となり、最高に盛り上がったところで、残念ですがそろそろ定刻の七時が近づきました。森事務局長の閉会挨拶に続き、小栗副会長の音頭で会員の健康と東腎協のますますの発展を祈念した三本締めが行なわれ、二時間半に及んだパーティーは大成功のうち閉会しました。

閉会後でも、会場の前では「三〇周年にも元気に出席しましょう」とお互いにはげまし合っている姿が見受けられ、七時とはいまだ明るい夏の空を見上げながら三々五々家路につきましました。

(報告 清水)

東協協会は今年で結成二五周年を迎えました。年度初めから精力的に数々の取り組みを進めています。編集委員会では、透析二五年以上の五人の会員に焦点を当て、特集を組みました。

透析歴25年以上の会員さん訪問 ①

透析導入時の 大変な苦労話

斉藤 勇さん

(60歳、あけぼの友の会)

☆一週間日参し、頼み続けてやっと透析を受ける

斉藤 尿毒症が悪化し、入院先の病院から「あと、一週間の命」と宣告され、「なんとか、生き延びる方法はないか」と、担当医に必死に相談したところ、「透析という道があることはあるが」と説明されました。

透析とは何かも知らずに、「目白に個人経営の施設がある」と場所だけを聞き、飛ぶようにして行ってみましたが、「受け入れる余地はない」と、簡単に断られました。

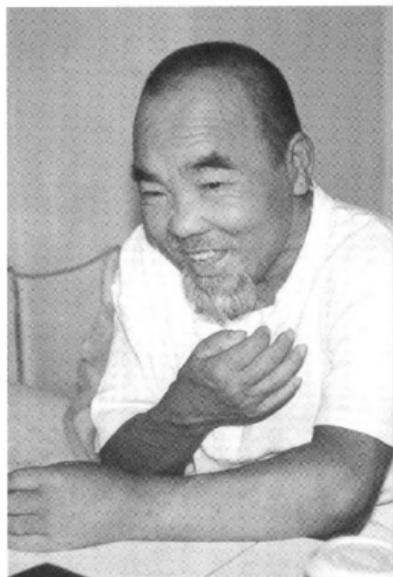
た。それから、家内と家内の家族が一週間日参し、泣いて頼んで、ようやく透析ができたというのが実態です。

当時は透析機が極端に少なく、その施設もわずか二台でしたから、医者が選んだ患者しか透析を受けられませんでした。このように、医療費の助成もなく、金の切れ目が命の切れ目でした。

今は、透析が必要になれば、医者が施設を紹介してくれて、すぐに透析が受けられ、障害者の医療費助成が適用されて夢のような恵まれた時代になりました。現在のよな時代が末長く続くといいですね。

☆食べられない、飲めない

斉藤 週二回、一回八時間の透析で、わずかにキロ程度しか除水できません。食事は少量、水も殆ど飲めませんでしたから、栄養不足になり、「ヘマト一四%、心胸比六〇%」は普通でした。透析中は



笑顔でインタビューに答える斉藤さん

食事はもちろん、お茶も飲めず、おやつ、餡のような物と、喉が渴くとガーゼを湿らせ、口にくわえていました。当時の習慣で、今でも体重は少ししか増えませんが、透析中に食事もお茶も飲めるのがとても幸せです。

☆内シャントになって思い切り手を水に漬けた

斉藤 念願の内シャントができた時は嬉しくて、看護婦さん達と海水浴に行き、何回も手を海に入れました。外シャントでは、風呂呂に入るのも手にカバーをして、濡らさないように入っていました。

斉藤さんから透析導入時の話をうかがい、昔は簡単に透析に入れ

なかつたことを改めて認識させられました。今はだれでも、どこでも、いつでも、透析が必要になれば医療費の心配なく透析に入れるから、何も感じないでいるが、大変なことなのだと思います。このことに患者会の果たした役割は大きなものがあります。私たち新しい役員も温故知新というように設立時の状況を知ることによっていくことができると思います。

斉藤さんは、透析導入後初めて陽明塞で長く入院して、足が弱っています。あけぼの病院の対応に感謝していました。また、顔色も良く、お元気でした。一日も早い退院をお祈りしています。

(取材 清水・写真 東野)

透析歴25年以上の会員さん訪問

②

笑顔の

素敵な専業主婦

志垣 春子さん

透析25年

(吉祥寺クリニック腎友会)



終始笑顔の絶えない志垣さん

☆透析を始めてから結婚

今回特別インタビューをした志垣春子さんは、吉祥寺クリニック

で透析をしている、笑顔を絶やさない素敵な専業主婦です。

志垣さんが透析を始めたのは、昭和四七年、諸先輩の努力・陳情で身体障害者福祉法が改正され、内部障害者に透析が認められた年の翌年でした。透析導入は熊本市内の済生会で、最初は週二回、六時間透析でした。そのうち心胸比が大きくなり週三回に変わりました。

志垣さんは、透析を導入して一〇年目の昭和五七年に、健常者の旦那様と結婚されましたが、現在幸せに年を重ね、結婚して一五年経過しています。

透析者と健常者の結婚は大変珍しく、私の回りでも今までにあまり聞いたことがありません。私も大変関心があり、志垣さんに、馴れ初めを聞かせてもらいました。

☆結婚の馴れ初め

今から約二〇年前、透析を始め、五年位経った頃、志垣さんは昼間アルバイトをして夜間透析をしていたのですが、六時間透析のため真夜中になったり、遅く疲れた

ときは病院のベッドでそのまま寝たりしていました。

それでも彼女は日曜日は、クリスチャンのため教会に通っていました。彼もクリスチャンで、年下ですが中学時代から知っており、同じ教会の青年会のメンバーでした。透析で帰宅時間が遅くなる話を聞いた彼から、ボランティアで帰りを送る申し出がありました。

☆結婚へのゴールイン

三年位たち彼から結婚のプロポーズがありました。始めは彼女にまったくその気が無く、一年半位断り続けました。彼の実家が保育園だったせい、彼は大変子供好きでもありました。また長男であるため親が猛反対、それでも彼の意志が大変強く、親と絶縁状態になりました。クリスチャンである彼女の回りの婦人会や友達のかい祝いで、幸せな結婚式を挙げる事が出来ました。

結婚当初、彼女は透析をしているので、自分は早く亡くなり、彼が他の人と結婚して子供のある生活をした方が良くと思うこともたびたびありました。結婚してからは、規則正しい生活になり、かえ

って元気になり、今は彼に大変感謝しています」と話されました。

お蔭様で、今は彼の両親とも親しくなり大変うまくいっているそうです。

☆これからの希望

現在、昼間透析を週三回して、体調にいき、病院に感謝しています。今の楽しみは二人で一泊の旅行、もちろん旦那様の運転で色々楽しんでます。これから二人でひとときも長く、楽しい張りのある生活を送りたい。また二人で大事な時間を積み上げて歳をとって行きたい。

志垣さんは、最後に笑いながら旦那様に巡り会えた自分の幸せを改めて噛み締めているようでした。私達からも、これからの幸せが永遠に続きますように、という言葉が口から自然に出ました。

志垣さんの話私の心も大変辛くせになり、これからのたぐさんの若い透析患者の人生の一つの生き方になることと思ひ、それを実現するには凄く勇気が必要なことと共鳴しました。

(文・東野・写真・井上)

透析歴25年以上の会員さん訪問 ③

自分に厳しく 前向きに30年

中脇 賢蔵さん

(47歳、薫風園腎友会)

清瀬市にある内部障害者更正施設清瀬園内の医学技術専門学校で、副学院長として後進の指導に当たっている中脇さんを訪ねました。

—まず生年月日をお願いします。

昭和二十四年一〇月二〇日生まれで四七歳です。



透析を始めた時、2年と言われました

☆もっても二年と言われた

—透析導入のきっかけは。

昭和四三年一月、高校三年で受験勉強中でした。前日まで普通に通学して、体育などでもしていたのですが、近所の人に顔色が悪いと言われ近くの開業医で受診したところ、血圧が高く尿蛋白も出て、腎機能検査では腎機能が殆ど無くなっていましたので、即入院と言われ翌日紹介された病院に入院。

一カ月ほど絶対安静でした。その病院では透析ができず、手の施しようがないと言われたのですが、運良く、虎の門病院に移ることができ、五月から腹膜透析を導きました。

—血液透析を始められたのは。

一年後の四四年五月から血液透析になったのですが、医師から家族には、もっても二年位と言われるぐらいでしたので、私自身その後二年位は何も考えられる状態ではありませんでした。

—その頃の透析自体大変だったのでしょうか。

機械も少なかったもので、よほどのことがないかぎり週二回で一回八時間位、透析液は二人で使うので、上流の人が熱をだすと下流の人も熱をだすなんて事もありました。

—ところで、この清瀬園との出会いは。

血液透析を始めて三、四年経ったところ、少し体調も良くなってきたので、何とかなるかもしれないと、途中で断念した大学に入学生、教職課程を修了して卒業したのですが、思うように就職できませんでした。それで以前聞いていたこの清瀬園に三二歳の時に入園し、再び勉強して三年後、臨床検査技士の免許を取得して、この職員の臨床検査学校の講師として採用され今日に至っているんです。

—大変努力家なんですね。透析でも努力されたと思うんですが、三〇年の秘訣を是非。

やはり一番気をつけたのは、水分、塩分、カリウム、体重を増やして過剰なことだけですね。でも食べないが体力が落ちるのでデキタを見ながら、気分的には少し少なめですが、しっかりと取るといふなかなか難しいことですけど、そして、自分に余り制限を設けないことです。

透析という周囲からも病人扱いされてついつい自分のやりたいこととか行動範囲を狭くしてしまいがちですが、そこを自分で制限しないで、後で後悔しないようにいま出来ることを大事にしていきたいと思っています。そして、体的にも少し負荷をかける位にした方が、元氣さとか今の体調を維持できるのではないのでしょうか。

—ありがとうございます。

三〇年の重みを感じる貴重なインタビューでした。

透析患者を含めた内部障害者の社会進出のために、ますますのご活躍をお祈りいたします。

(文・写真 軽部)

透析歴25年以上の会員さん訪問

④

生きる活力は

社会の中で生活

山本淳二郎さん

(立川相互腎クリニック希望会)

筆者と同じクリニクに通う、五七歳になる山本さんに、透析を終えたあと、待合室でインタビューしました。

―透析導入の頃は

昭和四六年、五月、身体の異常を感じて、会社の診療所で受診・検査をしたところ、尿蛋白が出て



食べることも人生の楽しみと
話す山本淳二郎さん

いると言われたのが、最初でした。その後、慢性腎不全と診断され、食事療法などをしてきましたが、二年後の四八年六月、とうとう呼吸困難になって東邦医大病院で腹膜灌流を始めました。

―その腹膜灌流はどうでしたか
最初の3回くらいが大変でした。五〇〇ccの灌流液を四本分、お腹に入れて、一時間後に排液し、また、新しい液を入れます。それを二四時間持続して、やっと一日休み、二回目は二六時間持続して、一日休み、三回目も二四時間。その灌流液も温めて入れなければならず、看護婦が付つきりというわけにもいかないので、妻や会社の同僚が交代で面倒みてくれ

て、それは大変でした。四回目は機械で自動的に交換するようになり回数も減りました。週二回、でも、時間は一回二四時間と変わらず、長かったですね。一ヵ月ほどして、透析になったのですが、腹膜灌流に比べてなんて楽なことかと思いました。

―お仕事の方は

自動車会社に勤務しています。透析導入の頃に二年ほど休みましたが、同じ職場に復帰して、いまも同じ仕事をしています。職場の人たちも、非常によく理解してくれ、励ましてくれるので、仕事は快適にやっています。また、自分自身も仕事が好きで、長い夏休みなどにかえって調子を崩すくらいです。

―いい会社・職場に恵まれましたね、ところでご家族は

家内と息子一人です。こうやって生きてこられたのも、家内が食事など手抜きしないで、バランスよく作ってくれて、今でも、会社には弁当を持っていくなど、よくやってくれたおかげだと思っています。そして、透析導入の時、五歳だった息子もいつの間にか、やさしい保護者になりました。

そして、この九月に結婚して、一つの区切りを迎え、ここまで無事にやってこれたことを、大変うれしく思います。やはり家族が一番の支えですね。

―最後に長年、元気があったご自身の秘訣と伝えたいことは

元来、神経質だったのですが、いつしか、具合の悪いときは、「降りはじめた雨はいつか止む」とか「時がすべてを解決する」というように淡々とした気持ちで過ごしてきたことです。普段の管理では、時には、息を抜いて食べたいものを食べ、飲みたいものを飲む、食べることも人生の楽しみの一つですから。しかし、週末には残さないように抑えるところは抑えるということが、長くやってきた秘訣ではないかと思えます。

そして、医療費が高額な透析を自己負担無しで、受けて生きていけることに感謝して、自分のできることを、楽しみを見つけてがんばってほしいですね。

―ありがとうございます。

今度は、お孫さんの誕生と成長を楽しみにあと、一〇年、二〇年とお元気でいてほしいものです。

(文・写真 軽部)

透析歴25年以上の会員さん訪問

⑤

ゆるやかに 流れた25年

藤本二三枝さん

(松和患者会西新宿支部)

☆導入の頃

腎不全、それは、突然やってきました。

スキー場で風邪をひき、それがなかなか治りませんでした。(昭和四七年一月のこと)二月に入ると、朝、起床するのが辛くなり、会社へ行っても具合が悪く、ソファーに横になったりしていました。

会社が医学書関係の出版社ということもあり、上司の勧めで慶応大学病院を紹介してもらい、それから中野総合病院に移り、そして代々木病院へと転々とし、やっと都立大久保病院にたどり着きました。(すでに腎不全状態であり、当時は透析の機械が不足していた

ので)

この間、昭和四七年四月に都立大久保病院腎不全センターがオープンするまで、代々木病院で待機させられ、精神的なショックも大きく、この頃が一番辛い時でした。昭和四七年四月から一カ月は、腹膜灌流をやり、五月から血液透析を導入しました。

☆楽しかった思い出

透析終了後、仲間の人たち四人で、よく、歌舞伎町の喫茶店で、当時、食事制限が厳しく、飲んではいけないコーヒを飲んだり、氷を食べたりしたことを思い出しました。

昭和五二年に、初めての海外旅行で香港に行きました。国内旅行はもちろん、海外旅行等、諦めていたので、初めて飛行機に乗って行けたことは感激でした。香港では、映画「慕情」の舞台にもなったレパルス・ベイが思い出に残っています。

☆二五年経って感じる事

今、振り返って考えてみると、

ゆるやかに過ぎた二五年だったよ
うな気がします。

内シヤントの手術を三回、昭和五五年に副甲状腺の手術をしましたが、それ以外は、バネ指や手根管の痛みもなく、これといった手術をしたり、入院することもなく、比較的、順調に過ごしてこれたと思います。

現在、不整脈が出て心配になることもあります。いろいろな合併症で苦しんでいる人がいる中では、幸せな方だったのでないかと思っています。

これも、都立大久保病院で運命的な出会いともいえる、現在の稲田院長のお蔭様で、導入から今日まで、お世話になっております。

☆私のモットー

自分を活性化させるために、最



読売ランドで巨人の練習を見るのが楽しみ

近、次のようなことを心掛けています。

—私の3K—

- ①(何事にも)興味を持つこと
- ②感動する心を失わないこと
- ③思いついたら行動すること

☆今、楽しみにしていること

四年前に会社を辞めましたので、体を動かさなためか、中性脂肪が上がってしまい、そのため、家から近くの読売ランドまで散歩するようになりました。読売巨人軍のファンなので、その近くのジャイアンツ球場まで足を運び、若い選手を応援しています。その中から将来どんなスター選手が誕生するか楽しみです。

(いつまでも、ゆるやかに流れる毎日でありますように (糸賀)

「緊急時透析患者手帳」を作成

東腎協はこれまで、透析患者の災害対策の充実を重要課題の一つとして運動してきました。特に、「阪神大震災」を契機に、行政、透析施設、会員の防災意識も高まり、それぞれの立場から対策が取られてきました。

東腎協では一九九五年一二月、災害対策意識調査を実施、翌一九九六年三月に、その調査結果とともに、全腎協作成の「災害対策マニュアル」、「防災の手引き」を



表紙とCAPD患者用と透析施設名簿

各腎友会あてに送り、災害対策の充実を呼びかけてきました。さらに、一九九六年九月の第三七回幹事会では「東腎協緊急時連絡網」、「ブロック別透析施設名簿」を配布しました。

このうち、「ブロック別透析施設名簿」は会員に好評で、各会員に配布してほしいとの要望が多数ありました。以前より透析施設名簿が欲しいという要望はありましたが、施設の把握、発行費用などの問題もあって、先送りとなっていました。



「手帳」の表紙と食事と薬の管理（5ページ）

透析施設名簿は 阪神大震災で活躍

一九九五年一月に起きた「阪神大震災」の際、自分の通っている施設が倒壊し透析ができなくなったり、交通網の断絶で透析施設まで行けない患者さんがたくさんでした。

その時、透析施設を探すのに大いに役立ったのが、兵庫県腎友会の会報「希望」の透析施設広告欄でした。

こうした実例もあり、今年度が東腎協二五周年に当たることから、記念事業として、透析施設名簿付きの「緊急時透析患者手帳」

の作成を決め、災害対策検討委員会に検討に入りました。

これまでも緊急時のための患者カードは、かなりの数の施設でも配布されていたと思います。

今回作成した東腎協の「手帳」は、特に大震災を意識したもので、保険証をはじめ、各医療券の番号の控え記入欄、全腎協や近県組織の連絡先、東京都衛生局の電話番号も入れました。透析データ欄には「血液透析条件」に加え、CAPD（腹膜透析）患者用欄も設けました。

データは自分で記入 して不慮の事故に対処

透析データの記入については、透析データのところは、スタッフにわたらないところは、スタッフに聞いてなるべく自分で記入しましょう。

この手帳を使うような事態が起これなければそれに越したことはありませんが、常に鞆やハンドバックの片隅に入れて置いてください。

（報告・森）



表紙とメモ欄

東腎協活動の窓

JPC難病の仲間とともに 薬書運動に取り組む

厚生大臣や厚生委員宛に各患者会会員から、薬書を書いて、難病患者医療費に三分の一の自己負担を導入する施策に反対しました。期間が短く、困難な取組みでしたが、実施できました。ご協力ありがとうございました。

川野裁判

「復職をめざす会」に入会を

長野のタクシー運転手川野さんが透析を理由に解雇され、昨年一月に、署名運動を行いました。今は東京高裁で控訴審公判中です。裁判支援組織として「川野さんの復職をめざす会」が設立されました。人ごとではなく透析患者の就職差別をなくさせるための運動に支援をお願いします。

来年度マル障はどうなる

都議会に署名をぶつけよう

この九月からの保険制度改正による本人二割負担は私たち透析患者に影響は出ないですみました。

しかし、新聞にも報道されたように東京都財政健全化計画の名のもとに私たちの透析医療費無料化を支えている心身障害児者医療費助成の見直しが実施されるかもしれません。来年度、私たちの医療費はどうなるのか定ではありません。この動きに対し、九月一四日開催された第三九回幹事会で一二月都議会に向け、東腎協会員二署名運動に取り組むことが決まりました。自分の命は自分で守らなければなりません。東京が崩れれば全国に波及します。だれでも、いつでも、どこでも、安心して透析ができる今の制度を守るため全国の仲間と先立つて立ち上がりましょう。これに従い例年の全腎協、JPCの署名運動は来年一月に実施します。

長年の運動実る

一八年の年月をかけて取り組んできた東京都に対する災害対策要請が、衛生局作成の「災害時における透析医療活動マニュアル」発行という形になり、都内各透析施設に送付されました。災害対策の推進が期待できます。

25周年記念会員拡大運動

未加入施設訪問先一覧（4月～8月）

★新宿区

山田クリニク ヨリゴ戸山クリニク 新宿石川病院 下落合クリニク 須田内科クリニク 大久保渡辺クリニク

★渋谷区

並木橋クリニク 渋谷パーククリニク

★大田区

松井病院 黒田病院 大森赤十字病院 池上総合病院 沢井医院 牧田総合病院 中島病院 東急病院 千葉医院 東邦大学 大森病院 東京労災病院 京浜病院

★千代田区

小池内科

★多摩部

（立川、日野、三鷹、府中、町田、狛江、八王子、武蔵野、あきる野）

★文京区

日本医科大学腎クリニク 駒込駅前クリニク

★江戸川区

加藤内科 新葛西病院

立川共済病院 日野クリニク 東京都立府中病院 桜井病院

★江東区

土屋胃腸科医院 西大島腎クリニク 江東病院

美好腎クリニク 町谷原病院 武蔵野赤十字病院 岡庭医院

★墨田区、台東区、荒川区

立花クリニク 野中医院 西日暮里クリニク

山川クリニク 公立阿伎留病院 佐藤内科循環器クリニク 東京慈恵会医科大学第三病院

★板橋区

群医院 八木内科

以上54件。

注：訪問員一東腎協常任幹事・会員拡大委員ほか12名。

なかまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの闘病記、患者会の催し、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽に書いて事務局へ送って下さい

真鶴、箱根方面に バス旅行

調布東山クリニック腎友会

梅雨時とは思えない、朝からの猛暑となった、快晴の六月二十七日(日)、真鶴、箱根方面への久しぶりの日帰りバス旅行を実施しました。

二四人乗りのバスが一杯となった二人が参加、午前八時半、病院前を出発し、真鶴に向かいました。途中混雑もなく、予約した時



楽しかったバス旅行でした

間より早く、昼食をとる予定の「うに清」に到着しました。

「うに清」の食事は予想以上の豪華版で、船盛りの魚貝類は健康人でも食べ切れないほどのボリュームで、参加者もこの時だけは透析患者であることも忘れ、舌つづみを打ち、大いにその味を満喫していました。

当初の計画では、食後にサボテン公園に行く予定でしたが、当日の猛暑を考慮して、箱根、「ガラスの森美術館」に直行となりました。

箱根芦ノ湖畔を通り、仙石原を抜け、「ガラスの森博物館」に到着したのが午後二時、一時間で沢

山のベネチアン・グラスを見学しましたが、歴史的作品が数多く展示された館内を見て回るには一時間では足りないほど見事な作品が出品されていました。

車中ではビンゴ・ゲームに全員が熱中しました。賞品は各幹事が提供し、一等賞は電気釜でした。

また、「透析の歌」を全員で合唱しました。始めて歌った人は「身につまされません」と感想をのべていました。

残念ながら、箱根の東名道は混雑しましたが、午後六時過ぎに皆さん何事もなく、楽しく病院前に到着し、解散しました。

(報告 清水)

25周年記念会員交流会パーティー感想

一流レストラン並

の料理

東高円寺フエニックス会

吉田 喜代子

二五周年記念交流会に参加して、とても、楽しいひとときを過ごさせていただきました。一流レ

ストラン並のお料理もさることながら、ゲーム(馬券付き)、カラオケ、アトラクションなど、楽しい企画を立てていただき、時間の立つのも忘れて、過ごすことができました。

日頃、忙しい事務局の活動や、担当の役員さんに心より、感謝します。

輝いて見える

会員・出演者に驚き

東海病院 ひまわり会

小野 協子

一五周年記念交流会に参加させていただき、ありがとうございます。私は透析歴一年半程で、今回のようなイベントに参加するのは初めてですが、とても楽しむことができました。まず、参加した方々が明るく元気で、交流会を楽しんでいる姿に驚きました。透析歴一〇年以上を過ぎていても、屈託のない笑顔で他人と接することができるのは、日頃から自己管理を怠らず、前向きに病氣と闘っているからだろうと思います。

初対面の方々からも声を掛けていただき、経験談や、病院での患者会の活動、家庭内での苦勞談などのお話を聞くことができ、とても勉強になりました。

また、競馬、マジック・歌謡ショー、カラオケなどは私自身も楽しめましたし、出演した方々も輝いて見えました。どの方もそれぞれに悩みを抱えていることでしょ。保険法改悪、臓器移植など、



透析20年以上の参加者壇上へ



幹事会長（左）と談笑する平川、橋本さん

とができるのは、長い問腎臓病と闘っていただいた先輩の方々のおかげです。今後は、二〇代、三〇代の者が、東腎協の活動を受け継ぎ、発展させていかななくてはならないと思いました。

アット・ホームで

疎外感なく楽しめた

個人会員

上村 安義

五月の全腎協神戸大会につづいて、六月の東腎協一五周年行事に夫婦で参加して、各先輩たちのお

話を聞く機会に恵まれたことを感謝いたします。ある人はCTRにまたある人はヘマトに気をつけている、また除水量にと、経験談を交えながらお話をいただき、大変参考になりました。

私の透析生活はこの秋を迎えて、満三年になりますが、本年二月に、東腎協に入会したばかりの新人です。これまでの自己管理は近所にいる同業者（透析七年目）に記録の付け方、体重管理にはじまって、食事の内容、シャントの管理と細かくご指導を仰ぎ、自分なりにBUN、K、P、ヘマトクリット、CTR、フェリチンの各項目は透析導入以来今日まで、グラフに記入し、備忘として、その期間の主な行事を記録することにより、透析日記として活用しております。

さて、本題に戻りますが、当日の運営は大変すばらしく、アット・ホーム的で個人会員でも疎外感がなく、大いに楽しめました。また同じテーブルにいた役員さんもお話もユーモアを交えての談話、夫婦共々感謝の念で帰途につきました。一つ、残念だったのは馬券

があたらなかったことです。

とりとめのない話で申し訳ございませんでした。最後に私の透析ライフは透析するための日常生活ではなく、生き抜くためにする透析を心がけてまいります。

はじめてまっし

「牧田菊の会」です



協力してグループ結成した
早坂さん(左)と宮本さん(右)

東腎協のみなさん、はじめまして。私たちは大田区大森北にありますが牧田総合病院で透析をしています。

この度、「牧田菊の会」というグループを作りました。まだ、できて間もない一七人(九月二四日現在)の会員ですが、これからは

もっと会員を増やしたいと思っております。

会ができるまで

東腎協二五周年記念入会のおしりを配って東腎協入会の呼びかけを行なってくれたのは、以前に牧田総合病院で透析をしていたことのある早坂さん(西新宿診療所で透析中)です。

東腎協の名前はじめて聞いたという人も多く、東腎協について説明をして、理解を深めてもらうには、ご苦労も多かったことと思います。

そんな中でも、まじめ役(代表)をしていただいた宮本さんと協力しながら、少しずつ入会者が増えてきました。

特に、腎臓内科医長の若狭先生のご理解とご協力をいただき、心強いことと思います。「牧田菊の会」の名前は「菊の花は、丈夫で長持ち、そして、花の香りもよい」ところから付けたそうです。

今後とも、「牧田菊の会」のみなさんが仲良く、力をあわせて会活動を進めていってほしいと思います。

(報告・糸賀)

展望風呂に浸かり、透析を忘れる

豊生会 東腎協幹事

河野 篤子

私は透析を始めて六年目になる患者です。私のお世話になっている病院は豊島区にある豊島中央病院です。その中に、透析を受けている人たちの豊生会があり、その

一人のメンバーです。

六年の間には透析の不安や、これからの生活はどうなるのかという心配がいろいろありました。そんな中で病院の仲間や先生たちに励まされ家族に助けってもらい元気でやってこられました。

今回、八月三二日(日曜日)、伊香保温泉日帰り旅行が計画され、豊生会の会員三三人で行くことができました。朝九時に病院に集合し、院長はじめメンバー全員元気に出かけました。バスからの風景は新鮮で、車内ではビンゴゲームを行ない、バスの旅はとて、楽しめました。

そして、ガラス工芸の工場を見学し、旅館の「天坊」に着きました。昼食を食べた後、大きな展望風呂ににゅっくり浸かり、一日、病気のことも忘れてしまうような楽しい旅になりました。「今回の旅行で自信が付きましたので、家族旅行もできます」と小耳に挟みました。

これからも、豊生会として一年に一度、このような旅行を計画し、元気で、みんな楽しく行ければと思っています。



豊生会の皆さん

<p>腎研クリニツク</p> <p>院長 越野 正行</p> <p>〒109 新宿区高田馬場一―三三―一三 千九百九十九―五二―一 ☎〇三―三三―〇九―五二―一</p> <p>医療法人社団 懐和会</p>	<p>佐藤内科循環器科クリニツク</p> <p>理事長 佐藤 正和</p> <p>〒197 あきる野市林川二―一―一六 ☎〇四―二五―五〇―一三八三―一</p> <p>大久保</p>	<p>渡辺クリニツク</p> <p>院長 渡邊 恵</p> <p>〒109 新宿区北新宿二―一―一三 クラウンビル3F ☎〇三―三三―三六―一六四〇―〇</p> <p>医療法人社団 健賢会</p>	<p>小川クリニツク</p> <p>院長 小川 肇</p> <p>〒140 品川区南品川三―一六―一五 NK南品川1F ☎〇三―五四―六〇―一―一八八</p>
<p>月島サマリア病院</p> <p>院長 吉岡 隆</p> <p>〒104 中央区月島一―五―四号 ☎〇三―三五―三三―八九八―(代)</p> <p>医療法人社団 嬉泉会</p>	<p>嬉泉病院</p> <p>理事長 須藤 祐司</p> <p>〒126 葛飾区東金町一―三―五八 ☎〇三―三六―〇〇―九〇〇―(代)</p> <p>東京急行電鉄株式会社</p>	<p>東急病院</p> <p>院長 酒井 紀</p> <p>〒165 大田区北千束一―四―五―一六 ☎〇三―三七―一八―一三三三―一</p>	<p>和泉クリニツク</p> <p>院長 木村 典子</p> <p>〒101 千代田区岩本町三―一〇―一九 ☎〇三―三六―六八―一八四三―二</p>
<p>阿方内科</p> <p>院長 阿萬 忠之</p> <p>〒101 豊島区目白二―一六―一三三 ☎〇三―三九―八五―一五〇五―五</p> <p>医療法人社団 緑蔭会</p>	<p>土屋クリニツク</p> <p>理事長 土屋 喜嗣</p> <p>〒136 江東区亀戸六―一五七―二三 ☎〇三―三六―八五―一―九四一</p> <p>医療法人社団 ときわ会</p>	<p>大塚台クリニツク</p> <p>院長 鳴海 福星</p> <p>〒170 豊島区北大塚一―三三―一三 ☎〇三―三九―七四―六―四一―</p>	<p>大橋クリニツク</p> <p>院長 杉浦 啓之</p> <p>〒153 目黒区大橋二―一三―一九 大橋ビル2F ☎〇三―三四―六五―五―三三七</p>
<p>立川相互病院</p> <p>院長 滝田 杏児</p> <p>〒190 立川市錦町一―一六―一―五 ☎〇四―二五―二五―一―二五八五</p> <p>医療法人社団 健全会</p>	<p>立川相互腎クリニツク</p> <p>所長 小泉 博史</p> <p>〒190 立川市錦町一―一三―一―二五 ☎〇四―二五―一九―一―五〇五二</p> <p>医療法人社団 医新会</p>	<p>医新クリニツク</p> <p>院長 横山 博美</p> <p>〒193 板橋区大山町三―三―一 ☎〇三―三九―九五―一五―一〇〇</p>	<p>立川北口駅前クリニツク</p> <p>院長 楡垣 晴夫</p> <p>〒190 東京都立川市曙町二―二三―一―一 鳳山ビル5F ☎〇四―一―五三―一―二九九</p>

<p>医療法人社団 三友会</p> <p>あけぼの病院</p> <p>〒194 町田市中町一―二―二 ☎〇四二七―二八―二二</p> <p>分院 あけぼのクリニク</p> <p>〒190 八王子市小比企町一七―三二―五 ☎〇四二六―三六―二〇〇</p> <p>理事長 南郷 英明</p>	<p>医療法人社団 東山会</p> <p>調布東山病院</p> <p>理事長 後藤田 主博 院長 吉田 尚義</p> <p>〒192 調布市小島町一―三二―七 ☎〇四二四―八―一五五二</p> <p>桜が丘東山クリニク</p> <p>所長 児玉 孝也</p> <p>〒206 多摩市関戸四―四―一〇 神谷第一ビル四・五階 ☎〇四三三―三八―三五五</p> <p>調布東山クリニク</p> <p>所長 中岡 秀光</p> <p>〒192 調布市布田四―六一―一 調布大善ビル二階 ☎〇四二四―四一―三三三</p>	<p>三軒茶屋病院</p> <p>院長 大坪 公子</p> <p>〒103 三軒茶屋一―七―二 ☎〇三三四―一七―二一</p> <p>北多摩病院</p> <p>院長 小松 行雄</p> <p>〒104 四―八―六―八―二 ☎〇四二四―八六―八二一</p> <p>東和病院</p> <p>院長 稲生 綱政</p> <p>〒103 三六―二九―八―二 ☎〇三三六―二九―八二一</p> <p>上野病院</p> <p>院長 平田 克治</p> <p>〒103 三三―八―三―八―二 ☎〇三三三―八三―八二一</p>	<p>医療法人社団 松和会</p> <p>西新宿診療所</p> <p>院長 稲田 俊雄</p> <p>〒103 三三―七―六―一―九 ☎〇三三三―七六―一〇一九</p> <p>目白クリニク</p> <p>院長 須藤 睦雄</p> <p>〒103 三三―九―五―〇―二六 ☎〇三三三―九五―〇二六</p> <p>望星赤羽クリニク</p> <p>院長 喜田 浩</p> <p>〒103 三三―九―〇―二―五五 ☎〇三三三―九〇―二二五五</p> <p>望星田無クリニク</p> <p>院長 木村 英和</p> <p>〒104 四二―四―六―四―五七 ☎〇四二四―四六―四七二</p>
<p>阿佐ヶ谷すぎ診療所</p> <p>理事長 鈴木 利昭</p> <p>〒106 杉並区阿佐ヶ谷南一―一四―三 住宅公園ビル一階 ☎〇三二五―三七―一五二</p>	<p>東海病院</p> <p>院長 江本 秀斗</p> <p>〒106 練馬区中村北二―一〇―一 ☎〇三三九―九九―一三三二</p> <p>医療法人社団 昇陽会</p>	<p>総合病院 医療法人社団</p> <p>江東病院</p> <p>院長 黒田 博之</p> <p>〒106 江東区大島六―八―五 ☎〇三三六―八五―二二六六</p>	<p>医療法人社団 光和会</p> <p>昭島腎クリニク</p> <p>院長 栗本 義直</p> <p>〒190 昭島市松原町四―七 ☎〇四二五―四六―八五八一</p>
<p>森山病院</p> <p>森山 貴</p> <p>〒191 江戸川区西葛西六―一五―二四 ☎〇三三三―六七―二二二</p>	<p>医療法人社団 健和会</p> <p>柳原腎クリニク</p> <p>所長 岩城 敏彦</p> <p>〒120 0022 足立区柳原一―二九―一六 ☎〇三三三―八八―一七〇七</p>	<p>東京北部医療生活協同組合</p> <p>北病院</p> <p>院長 中村 正樹</p> <p>〒101 北区東十条一―八―五 ☎〇三三三―九一―五七七</p>	<p>多満ビル診療所より十月六日移転しました新しい施設です。 ワンフロア一七〇床 拝島駅より徒歩七分</p>

<p>西池袋診療所</p> <p>所長 菅田 秀俊</p> <p>〒117 豊島区西池袋三二二二一三 ○三三九八六一七九一 FAX ○三三九七一三四〇四</p>	<p>東京専売病院</p> <p>院長 島田 馨</p> <p>〒138 港区三田一四一三 ○三三四五一八一</p>	<p>日本たばこ産業株式会社</p> <p>心臓会 透析センター 医療法人社団</p> <p>府中腎クリニックス 南大沢パオレ腎クリニックス 八王子東町クリニックス</p> <p>センター長 杉崎 弘章</p> <p>〒183 府中市府中町一八一 六階七階 ○四三三一六六一八九〇九</p>	<p>東京健康生病院</p> <p>院長 川井 仁</p> <p>〒112 文京区大塚四二三八 ○三三九四四一六一(代) 一九九七年六月、永川下セツルメント (診)より移転・増床</p> <p>医療法人社団 清湘会</p> <p>菊川橋クリニックス 〒131 墨田区菊川二二二二 ○三二五六〇〇一三三二</p> <p>聖橋クリニックス 〒111 千代田区神田駿河台一五八四 ○三二五二八〇一九三八五</p> <p>江東橋クリニックス 〒131 墨田区江東橋二二二六 ○三三八四六一五七〇</p> <p>天神橋クリニックス 〒135 江東区亀戸五二二二三 ○三三三六六一三三〇二</p> <p>西クリニックス</p> <p>理事長 西 忠博</p> <p>〒111 台東区浅草橋五五一〇 浅草橋西ビル 4階 ○三三三六六一九五九</p>
<p>水と緑の里</p> <p>青梅 福生・羽村</p> <p>医療法人社団</p> <p>河辺駅前クリニックス</p> <p>〒138 青梅市郎町四一三二一三 ○四二八一三二八一〇〇</p> <p>医療法人財団 仁医会</p> <p>牧田総合病院</p> <p>院長 牧田 芳久</p> <p>〒133 大田区大森北一三四一六 ○三三三七六一四六七</p> <p>みなさんのおかげで二十五周年 会報も記念号で第一二〇号 ありがとうございます。 二〇〇号、三〇〇号に向けてさらに んばります。 「東腎協編集委員一同」 (名刺広告の掲載は到着順)</p>	<p>東京保険生活協同組合</p> <p>西 忠博</p>	<p>河辺駅前クリニックス</p> <p>〒138 青梅市郎町四一三二一三 ○四二八一三二八一〇〇</p> <p>医療法人財団 仁医会</p> <p>牧田総合病院</p> <p>院長 牧田 芳久</p> <p>〒133 大田区大森北一三四一六 ○三三三七六一四六七</p>	<p>水と緑の里</p> <p>青梅 福生・羽村</p> <p>医療法人社団</p> <p>河辺駅前クリニックス</p> <p>〒138 青梅市郎町四一三二一三 ○四二八一三二八一〇〇</p> <p>医療法人財団 仁医会</p> <p>牧田総合病院</p> <p>院長 牧田 芳久</p> <p>〒133 大田区大森北一三四一六 ○三三三七六一四六七</p>

事務局から

ご寄付お礼

扶桑薬品工業様 (毎月一万円) 一万円

計良武夫様 一万円

小関修様 (二十五周年記念会員交
 流会に) 一万円

東京厚生年金病院腎友会元幹事故
 佐藤清次様ご遺族佐藤よしゑ様 一〇万円

大和病院腎友会会員故駒木勝子様
 ご遺族様より横山美智江様を経て 一〇万円

お志を無にすることなく、活動
 に役立てさせていただきました。
 ありがとうございます。

個人会員森康子様

民営バス券二万円分
 ありがとうございます。

厚生省から東腎協に感謝状

腎移植の普及・啓発、腎不全対策
 の推進という功績により、厚生大
 臣から、東腎協に感謝状が授与さ
 れました。一〇月二日、糸賀会
 長と北爪副会長が代表して盛岡の
 岩手教育会館で受け取りました。

表紙の言葉

台場・フジテレビ本社ビル

樹水 照也



台場からのレインボーブリッジ

しとしとと秋雨の日がつづいていますが、本日はというど、午前中は雨で、午後から徐々に晴れてきました。「じゃ、撮影行こうか」と、ゆりかもめが待つ新橋駅に向かいます。ここか

ら、レインボーブリッジを渡り、台場駅には一分ぐらいで着きます。

ここには、あのひとときわ、光彩を放つフジテレビ本社ビルがあります。このビルは日本を代表する建築家丹下健三氏のデザインで、レストラン・展望台・屋上庭園などもあり、一般公開されています。展望台は高さ約一〇〇メートルで三六〇度の景色が楽しめる、東京タワーなど、周りの建物が一望できます。

平日だというのにツアーの奥さんたちや、若いカップルが多くみられます。臨海副都心といってもこのほかに、青海・有明と続いており、なかなかおもしろいところのようです。土・日は混みますが、出かけてみたかどうか。

〈編集後記〉

結成二五周年を期して誌面刷新すると二月の第三八回幹事会で発表してしまいました。この、半年あまりの早く過ぎたこと、人生でもあまりないことでした。最後は結局、元編集長加藤さんのお世話になりました。来年はがんばると言って三年めです。でも、ゆげずになんばります。(木村)

会員の皆さん、「東腎協」二五周年記念号を読んできかがでしたか。木村編集長を筆頭に編集委員が何回も話し合って、今号から体裁を変更しました。

そして、「少し長い編集後記を書いて欲しい」と木村編集長から依頼されて断つたのですが、どうしてもと言われて、この原稿を書いているのです。

この二五年間の機関誌「東腎協」の歩みは、第一に誇るものがあるとするは第一二号から年四回発行(季刊)にして一度も遅れたことなく発行され続けてこれたことです。内容はともかく機関誌の第一の使命は、定期発行にあるの

ですから。

二〇年の時には、もう二〇年かと思ひ深く思つたのですが、今また機関誌「東腎協」の新たな出発が出来てよかつたな、と思うところでは。

二〇年史を作った時は、①二〇年間の運動を振り返って(寺田、石坂、宝生、石川、泉山)歴代会長を中心とした運動の展開②座談会(家族と透析)③体験記(一年、一〇年、一五年、二〇年、最年長の透析患者、男女各一人ずつ)④一〇年誌に会員の手記を寄せた人へのインタビュー(対象五人)⑤長期透析者会員名簿、などを内容にしましたが、今回は五年の区切りで大がかりのものは出来ません。

内容的には、一五年の機関誌の特集に及ばないと思ひました。しかし、基本的考え方は余り困苦しいものは掲載せず、編集委員の中では、会員の人が読んで納得できるものということで一致したはずで、会員の皆さんの積極的な意見をお寄せ下さればいいな、と思います。(加藤)

大塚製薬

10%尿素
(ウレア)配合で
高い保湿効果

+

3種類の
かゆみ止め



クリームタイプ

ウレパールプラスクリーム
カ希望小売価格80g 1,600円(消費税抜き)

均一にぬりやすい、ローションタイプ

乾いた肌の、
しつこいカユミに。

●乾燥すると、カサついてかゆい時に。

●お風呂あがりや就寝前に、かゆみを感じるカサカサ皮膚に。

* かき傷や炎症があると、しみますのでご注意ください。

ウレパール[®] プラス ローション

効能・効果かゆみを伴う乾燥性皮膚(老人・成人の乾皮症、小児の乾燥性皮膚)成分と薬理作用 乾燥性皮膚の治療には、かゆみを早めに止めると同時に、カサカサした皮膚を正常にすることが重要です。①自然保湿因子の尿素と、ビタミンEが、かさつく肌をなめらかにし、潤いを与えます。②塩酸ジフェンヒドラミン、d-カンフル、リドカインの3種類の薬剤が、不快なかゆみをしずめます。メーカー希望小売価格100ml、2,000円(消費税抜き)※お求めは、薬局、薬店、デパートやスーパーの薬品部で。

この医薬品は、「使用上の注意」をよく読んで正しくお使いください。

ひっかく前に、かさつくお肌に、 フォーイッチ ローション

- さらっとベタつきません
- 使いやすいスプレー式



180ml 1,300円(税抜)

医薬部外品



ノブソープD

(仲練石鹸)
標準価格
90g 1,000円(税抜)



ノブリキッドソープD

300ml 1,800円(税抜)



ノブ オリゴマリン

(全身用保湿ローション)
200ml 2,000円(税抜)
(医薬部外品)



ノブ 薬用バスモイストチュア

(薬用入浴剤)
3袋入り 700円(税抜)
15袋入り 3,000円(税抜)
(医薬部外品)

NOV

株式会社 ノブ

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館18F

☎ (03) 3403-1334 FAX (03) 3403-3994

お申込みはフリーダイヤルでどうぞ

(東腎協とお申し出下さい)



0120-35-1134

- ◇受付時間 午前9:00~午後5:00(土・日・夜日を除く)
- ◇お買上げ金額 6,000円以上は送料無料
- ◇代金引換にて商品をお届けします。

私達の医療・福祉は 私達の団結で守ろう



25周年会員拡大運動にご協力を!

東京都腎臓病患者連絡協議会

〒171 東京都豊島区目白2-38-2 紫山会ビル
TEL.03-3985-7990 FAX03-3985-7998